

かんしょの貯蔵中におけるいもの欠損率と栽培条件の関係

かんしょ「宮崎紅」は、適期収穫・適正施肥・排水対策で貯蔵性が向上する

背景・目的

■ かんしょ収穫後の貯蔵性は栽培条件により大きく異なります。そこで生育日数、施肥が貯蔵中のいもの欠損に及ぼす影響を検討しました。

成果の内容

- 茎葉重が0.5kg/株を超えると、排水不良の場合を除き欠損率が10%以下に低下します(図1)。
- 収穫が遅れると、貯蔵中の欠損率の増加が大きくなります(図2)。
- 施肥量が不足したり(図3)、排水性が悪い場合(図4)も貯蔵中のいもの欠損率が増加します。

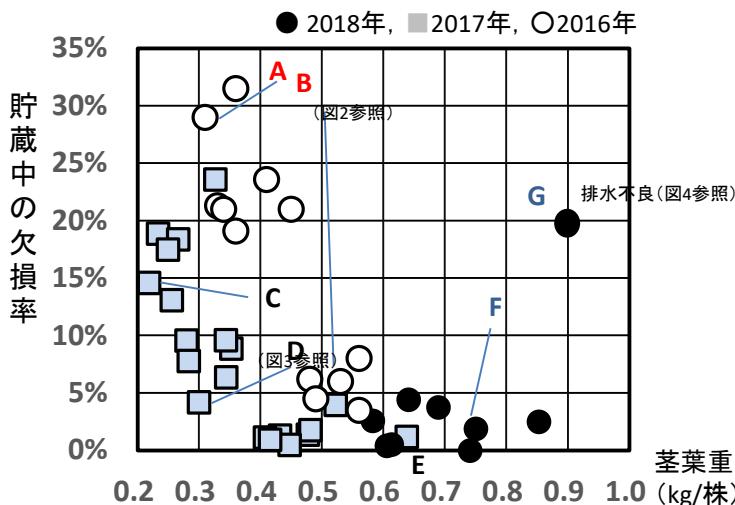


図1「宮崎紅」における貯蔵いもの欠損と茎葉重の関係

注1)図中の凡例は、①施肥量及び②植付から収穫までの日数などの条件を変えて収穫時の茎葉重と貯蔵中の欠損率をプロットしたものである。

注2)1プロットあたり18～20株、3回復の平均値

注3)貯蔵中の欠損率は、収穫後、貯蔵中に腐敗したいもの累計(3～5月時点まで)

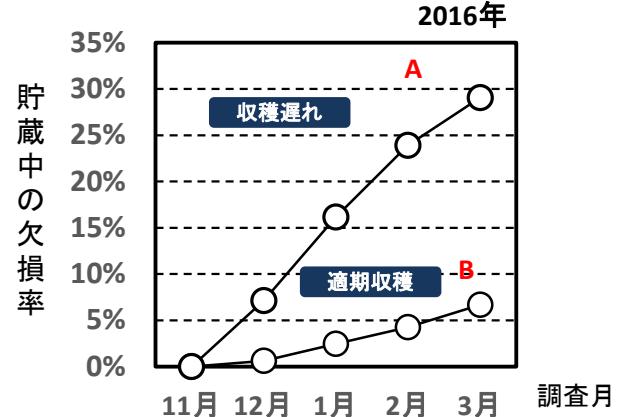


図2 生育日数が貯蔵いもの欠損に及ぼす影響

収穫遅れ：植付から167日後に収穫
適期収穫：植付から135日後に収穫

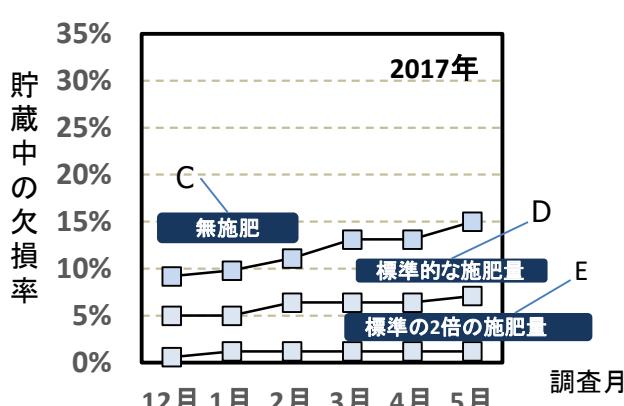


図3 施肥量が貯蔵いもの欠損に及ぼす影響

標準的な施肥量：窒素成分4kg/10a

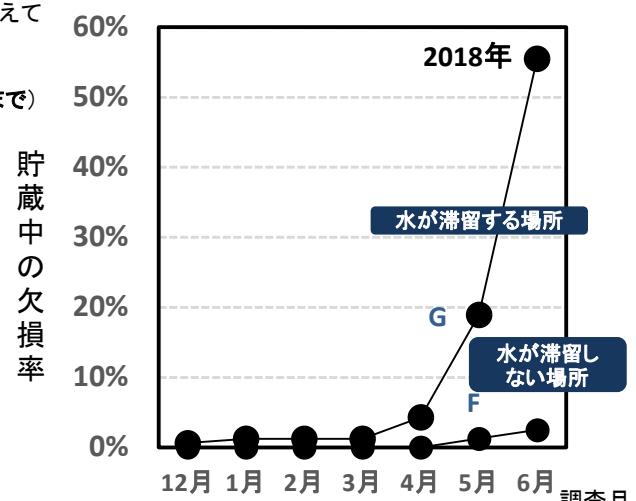


図4 畑の排水性が貯蔵いもの欠損に及ぼす影響

水が滞留する場所：勾配のある試験圃場において、排水面側。降雨後、1日以上水が滞留しやすい場所

成果の活用方法(又は期待される効果) 欠損率の低下により、歩留まりが向上します。

留意点

貯蔵中の欠損発生程度は、他栽培条件や貯蔵条件によっても異なります。

本試験は、基腐病などの発生がない圃場で、収穫時に見た目健全いものを用いました。